TOSHIBA
Leading Innovation

日本国内専用品
Use only in Japan

東芝空調換気扇（天井埋込形）

取付説明書

形名
VFE-12JFP

[販売店・工事店様用]

- この換気扇の注意事項をよく知っていただき、正しく取り付けていただくためにこの取付説明書をよくお読みください。
- 取付工事は、必ず専門の工事店にご依頼ください。
- この製品には、別売のスイッチ、システム部材が必要です。
- 別冊の取扱説明書及びこの取付説明書は工事完了後お客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく取り付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明

⚠警告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊ 1）を負うことが想定される内容”を示します。
⚠注意	“取り扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊ 2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊ 3）の発生が想定される内容”を示します。

＊ 1: 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊ 2: 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。
＊ 3: 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。	指示	指示する行為の強制（必ずすること）を示します。具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

- 取付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また､この取付説明書は取扱説明書とともにお客様で保管いただくように依頼してください。

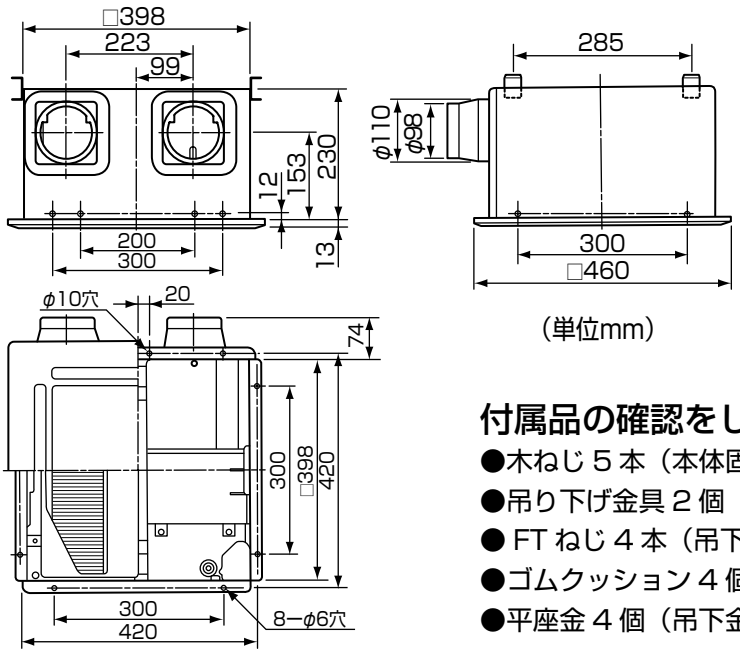
⚠ 警告	
取り付けは依頼	**取り付け・移設は、お買い上げの販売店または取付専門業者に依頼する** 取り付けが不完全なときは、水漏れ・火災・感電・部品落下によるけがの原因になります。
確実に取り付け	**取り付けは取付説明書にしたがって確実に行う** 取り付けが不完全なときは、水漏れ・火災・感電・部品落下によるけがの原因になります。
確実に取り付け	**強度のある所に確実に取り付ける** 落下し、けがをする原因になります。
電気工事士が実施	**電気工事・アース工事は電気工事士（※）が行う** 電気工事士以外の人が工事をすると、火災・感電・けがの原因になります。 ※電気工事士への依頼は、お買い上げの販売店または電気工事店にご相談ください。
取り付け禁止	**燃焼ガスや有害なガスなどを吸い込むところには取り付けない** **また、積雪で給排気口をふさぐところには取り付けない** 新鮮な空気の換気ができず、ガス中毒や酸欠の原因になります。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告	
 アースを接続する	**アースは、確実に取り付ける** 故障や漏電したとき火災・感電の原因になります。 アースの取り付けは、販売店や電気工事店を通じ、電気工事士に依頼してください。
 改造禁止	**改造はしない** 火災・感電・けがの原因になります。
 分解・修理禁止	**修理技術者以外の人は分解・修理（※）をしない** 火災・感電・けがの原因になります。 ※修理はお買い上げの販売店または、東芝エアコン空調換気ご相談センターにご連絡ください。
 交流 100V 使用	**電源は交流 100V を使う** 交流 100V 以外を使うと、火災・感電の原因になります。

⚠ 注意	
 使用禁止	**浴室など湿気の多い所には本体・スイッチを取り付けない** 火災・感電の原因になります。
 使用禁止	**メタルラス張りなどの金属造営材と接触させない** 漏電したとき火災・感電の原因になります。
 下り勾配に取り付け	**給排気ダクトは、室外に向かって下りこう配に取り付ける** 雨水の浸水により、家財などを濡らす原因になります。
 断熱する	**ダクトは、結露防止のための断熱を行う** 結露水の浸入により、家財などを濡らす原因になります。
 取り付け禁止	**機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料などの有毒ガス、腐食性成分を含んだガスが発生する所には取り付けない** ガスによる中毒・発火の原因になります。
 取り付け禁止	**高温や炎が当たる恐れのある場所、油煙の多い場所には取り付けない** 火災の原因になります。
 確実に取り付ける	**本体カバー・熱交換器などの部品は確実に取り付ける** 落下し、けがをする原因になります。
 電源を切る	**取り付け後、長期間ご使用にならないときは安全のため電源を切る** 絶縁劣化による火災・感電の原因になります。
 手袋を使う	**取り付けのときは必ず手袋を使う** けがをする原因になります。

製品寸法



（単位mm）

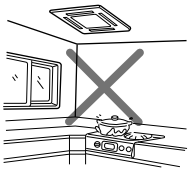
付属品の確認をしてください

- ●木ねじ５本（本体固定用、給・排気口固定用）φ4.1×32 ℓ
- ●吊り下げ金具２個
- ● FT ねじ４本（吊下金具用）φ４× 12 ℓ
- ●ゴムクッション４個（吊下金具用）
- ●平座金４個（吊下金具用）

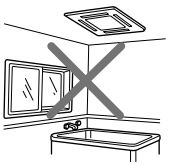
必ず守ってください

1 次のような場所には取付けないでください。

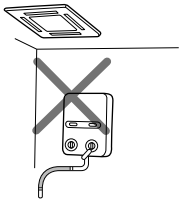
●台所など油煙の多い場所
熱交換器に油がついて目づまりをおこし、使用不能になります。



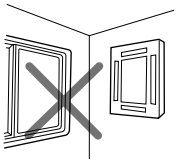
●浴室など湿気の多い場所
絶縁が悪くなり、故障、感電の原因となります。



●ストーブ、湯沸器の真上など温度が高くなったり直接炎のあたる恐れのある場所
プラスチック部品が変形したり、モーターの寿命が低下します。



●壁面への取り付け
天井取付用として設計してありますので壁面には取り付けないでください。

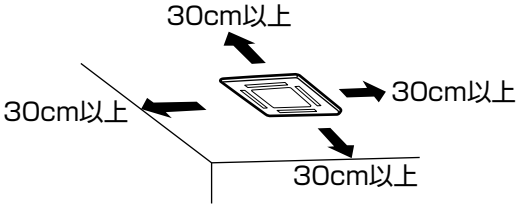


2 寒冷地など結露の恐れのある場所に設置する場合は、本体および使用する配管ダクトに必ず断熱材を巻いてください。

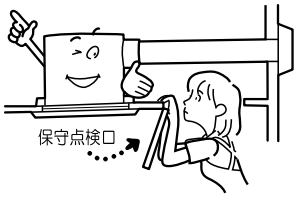
換気扇使用時ダクトに結露した水が滴下し、天井裏に水滴がたれることがあります。

3 ダクト配管は給気・排気が混ざらないようにしてください。

4 風の吸込口、吹出口には障害物がなく熱交換器のお手入れができる場所に取り付けてください。



5 点検口を必ず設けてください。



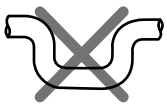
取り付け上のお願い

●次のようなダクト工事はしないでください。

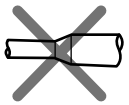
1. 極端な曲げ



2. 多数回の曲げ



3. 接続ダクト径を極端に小さくする



4. 排気口のすぐ近くでの曲げ

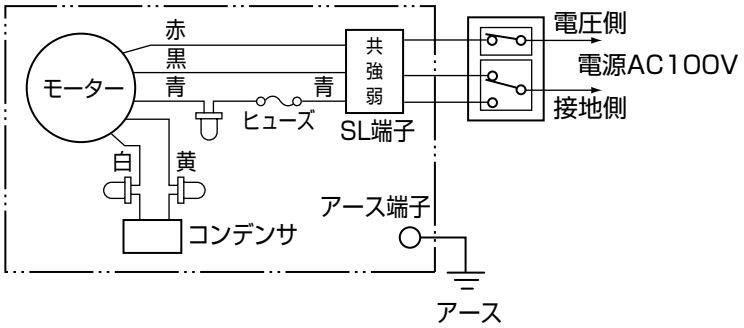


■ダクトと排気口をテクスねじなどで止めないでください。
シャッターが開かなくなります。

■地域によってはジャバラが使えないことがあります。
（詳細は行政官庁または消防署にお問い合わせください。）

■共同ダクトへ排気するときには、建築基準法施工令により防火の役割を果たすものを使用することが義務づけられていますので、2m の鋼板立ち上がりダクトを取り付けてください。

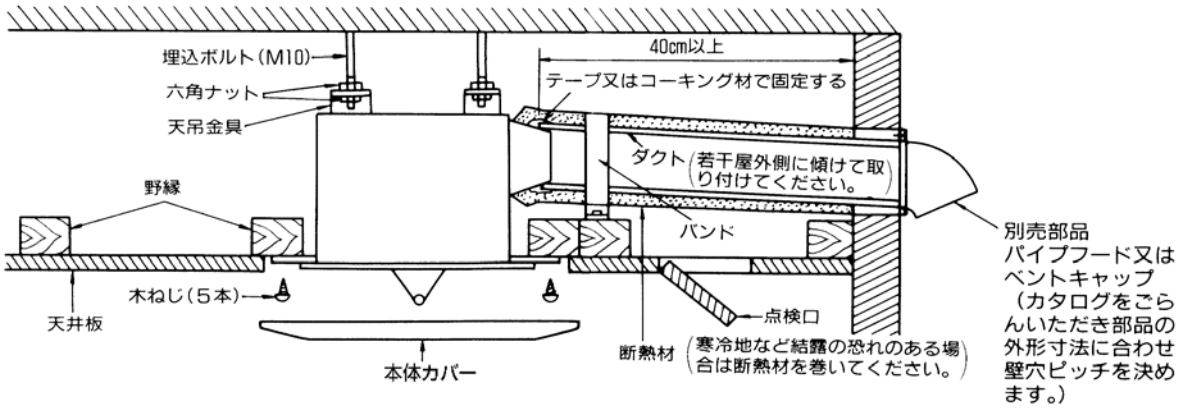
配線図

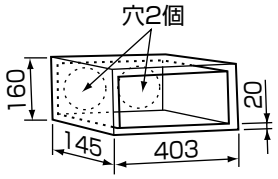


配線工事上のお願い

●別売操作スイッチ（SVF-531S(WW)、731S(WW) など）をご使用の場合、スイッチに付属のリード線は接続しないでください。誤って取り付けますとモーターの早期故障につながります。

取付参考図





地区により給排ボックスを使用する場合は現地調達願います。

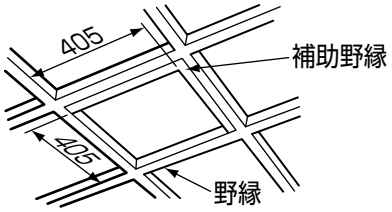
取り付け方法

●取付工事前に本体に異常音、変形などの異常がないか確認してください。

A 天井板を貼る前のとき

木枠に取り付けるとき

1 **木枠内寸に合わせて木枠をつくり野縁に固定します。**

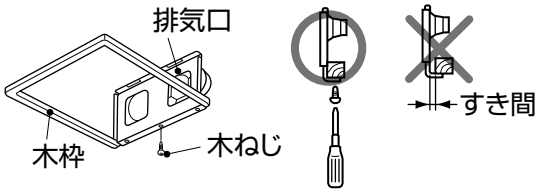


お願い

●製品の質量に十分耐えるよう木枠を補強材等で野縁に固定します。

2 **排気口を固定します。**

①排気口を木枠のかどにすき間がないように付属の木ねじ（1 本）で固定します。

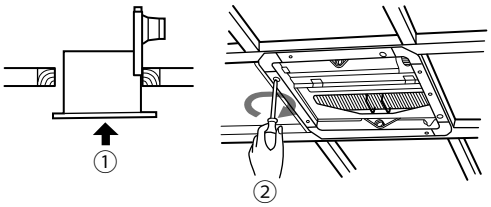


お願い

●工事をするときシャッターを変形させないでください。

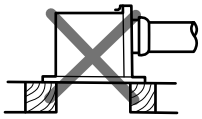
3 **本体を木枠に固定します。**

①本体を木枠にはめ込みます。
②木ねじ（4 本）で本体を木枠に固定します。



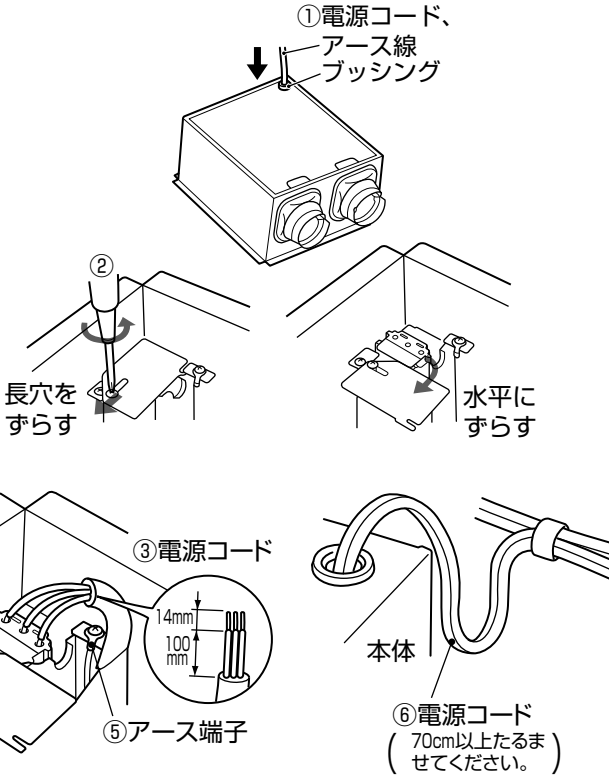
お願い

●本体の固定は排気口に密着させてください。風もれの原因になります。
●本体を木枠の上に固定しないでください。



4 **電源コードとアース線を接続します。**

①本体上部のブッシングから電源コード（VVF φ 1.6、φ 2）、アース線を差し込みます。
②カバーのねじをゆるめ、長穴を移動してからカバーを約 90°水平にずらします。
③ SL 端子に電源コードの芯線を確実に奥まで強く差し込んでください。（電源被ふくは 14mm むいてください。）（差込穴と位置はラベルの表示にしたがってください。）
④カバーをもとへ戻し、ねじを締め付けます。
⑤アース端子にアース線を取り付けます。
⑥電源コード及びアース線は本体部付近で 70cm たるませてください。

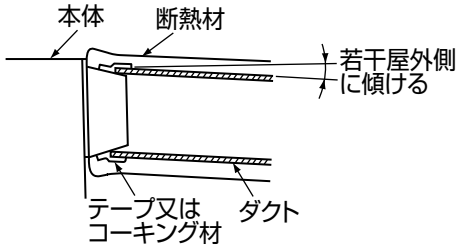


お願い

●配線工事やスイッチの取り付けは必ず電気工事店に依頼してください。
●スイッチは必ず活線側に取り付けてください。

取り付け方法（つづき）

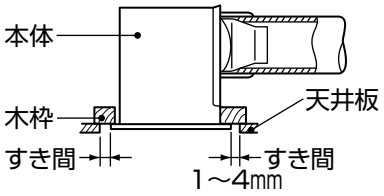
5 排気口にダクトをはめ込みテープまたはコーキング材で密封します。



お願い

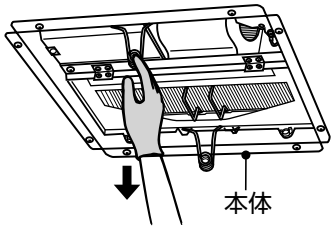
- ダクトは若干室外側を下げて取り付けてください。
- 給・排気口とダクトは必ず結露防止のため断熱してください。

6 天井板を貼り付けます。

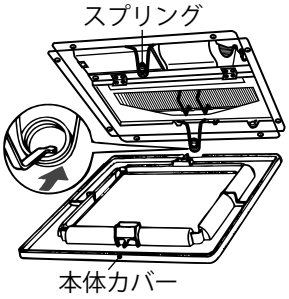


7 本体カバーを取り付けます。

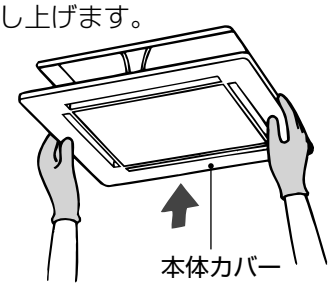
本体からスプリングを、止まるまでゆっくりと真下へ引き出します。



スプリングに取付金具を引っ掛けます。

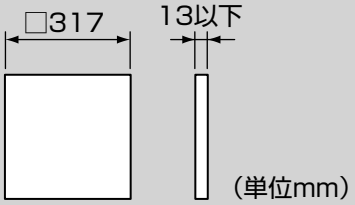


本体カバーをそのままゆっくりと押し上げます。

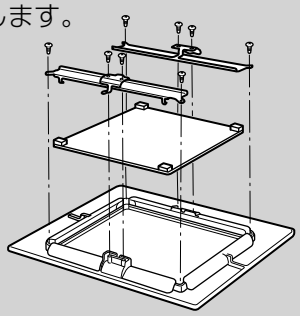


パネルを天井板に合わせる場合

天井板をパネルと同じ寸法に切断します。



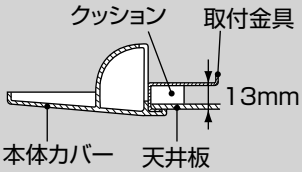
取付金具の締め付けねじを取りはずします。



天井板とパネルを入れ換えます。

※本体カバーとの間にすき間がないようクッションを切断して調整します。

※締め付けねじはあまり強く締め付けないでください。



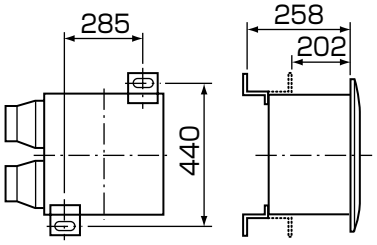
吊り金具を使用するとき

1 吊り下げ金具は付属の吊下金具を使用します。

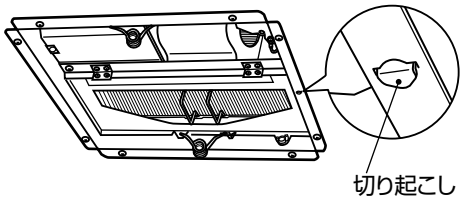
- 吊下金具を使用して取り付けたとき、本体の取りはずしはできません。

2 下図のようにアンカーボルトを埋込みます。

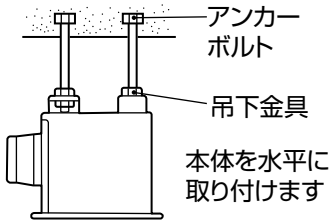
- 吊下金具は破線のような取り付けもできます。



3 排気口を本体に固定します。排気口の切り起こしを本体の穴に通してペンチ等で曲げます。



4 本体をアンカーボルトに取り付け、木枠を取り付けます。



お願い

●本体が水平になるように取り付けてください。

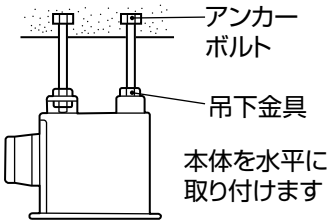
5 以後の取り付けは A－4・5・6・7 を参照してください。

B 軽量鉄骨へ取り付ける場合

必ず吊下金具を使用する場合の取付方法と併用してください。

1 吊下金具を使用する場合の取付方法 1 ～ 3 を事前に行います。

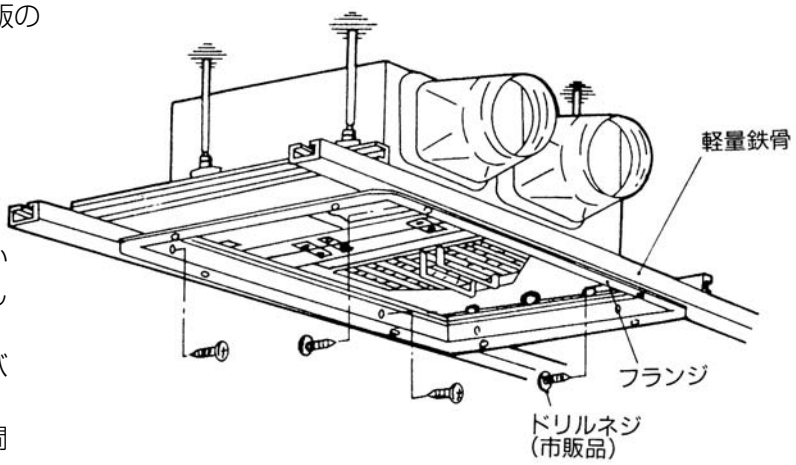
2 本体をアンカーボルトに取り付けます。



お願い

●本体が水平になるように取り付けてください。

3 軽量鉄骨で野縁を組み、本体内側から市販のドリルねじ（4 本）で野縁に固定します。



お願い

●本体を野縁に固定する際、本体の外側からドリルねじで固定するような工事はしないでください。
本体内にねじの先端が突き出て本体カバーが取り付かなくなる場合があります。

●本体のフランジと軽量鉄骨の間にすき間が生じないようにしてください。

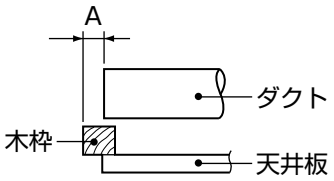
4 以後の取り付けは A－4・5・6・7 を参照してください。

取り付け方法（つづき）

C 天井板を貼った後の場合

1 排気口を固定します。

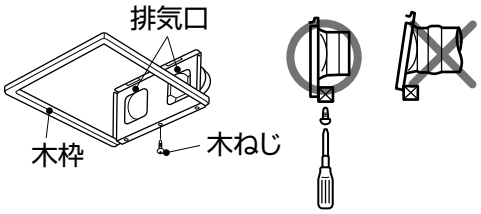
①ダクトの先端は下表の A に合わせてください。



（単位mm）

ダクト（パイプ）			
呼び径	VU	VP	スパイラル
φ100	25	45	45

②排気口をダクトにはめ込み木枠に付属のねじ（1 本）で固定します。



お願い

●排気口が傾いていますと本体が取り付けられません。

2 以後の取り付けは A ー 4・5・6・7 を参照してください。

以上で取り付け完了です。次の点検を行い異常がないか確認してください。

●製品の取り付け強度が十分なこと。
●運転したとき異常音、異常振動がないこと。
●本体カバーが確実に取り付いていること。